

大阪医科大学 後期		2009	2010	2011	2012	2013	予想		
有機化合物	芳香族化合物	48	ベンゼンと誘導体		○2	○2		△	
		49	フェノールと誘導体	○1C7H8O					
		50	芳香族カルボン酸と誘導体						
		51	芳香族アミンと誘導体						
		52	有機化合物の分離						
化学結合と物質の状態	化学結合	53	主な結合と結晶格子						
		54	結合エネルギー		○4				
		55	電気陰性度						
		56	配位結合						
		57	分子間力と水素結合						
		58	結晶構造, 密度と計算						
	物質の三態	物質の三態	59	物質の三態変化・蒸気圧				○3状態変化	
			60	ボイル・シャルルの法則			○4PV曲線		
		気体	61	気体の状態方程式					
			62	混合気体と分圧		○2			
			63	理想気体と実在気体					
		溶液	64	溶解の原理					
			65	固体の溶解度					
66			気体の溶解度						
67	沸点上昇等, 浸透圧		○3沸点の温度変化	○1II, 蒸気圧		○1△と二量	△		
68	コロイド溶液の性質								
反応の速さと平衡	反応の速さ	69	反応速度と速度定数		○1速度とモル				
		70	活性化エネルギーと触媒						
	化学平衡	71	化学平衡と平衡移動						
		72	平衡定数						
		73	電離平衡, 電離定数			○1	○3	△	
		74	水のイオン積とpH				○3	△	
		75	緩衝溶液						
		76	塩の加水分解						
77	溶解度積				○1				
高分子化合物	合成高分子	78	合成繊維, 合成樹脂				○4生分解性		
		79	合成ゴムと天然ゴム						
	天然有機化合物	80	単糖類, 二糖類			○4二糖類			
		81	多糖類						
		82	アミノ酸, ペプチド						
		83	タンパク質				○3検出反応		
		84	脂質						
85	核酸								
生活	衣料の化学	86	天然繊維						
		87	合成繊維						
	薬品の化学	88	医薬品						
生命の化学	89	呼吸とエネルギー							
		<2014年予想>							
		・ 実験装置と器具は頻出である							
		・ 濃度調整と濃度計算は頻出である							
		・ 熱化学と異性体・構造決定は出そう							
		・ 電離平衡とpHは出るかも?							
		・ 浸透圧・△tは出るかも?							